

手塚好幸著『沖縄近代林業の父 園原咲也と木曾の野山に咲く花』の紹介

資料館スタッフ 山口 登

そのはらさくや
園原咲也は120年前に木曾山林学校に入学した第1回卒業生。沖縄県の皆さんから「沖縄近代林業の父」とたたえられた林業指導者である。また植物研究においても琉球列島の植物を知り尽くし、その生き字引と呼ばれた学者でもある。

著者の手塚好幸さんは、30年ほど前から木曾山林高校で14年間にわたって国語の教師として教鞭をとられた。その間、同校の創立100周年記念誌の編集を担当され、現在は退職して塩尻市で農業の傍ら園原咲也についての研究を続けられている。また当館資料の重要性についてもアドバイスをいただいている。

著者は同校で園原咲也の存在を知って心を揺さぶられ、長年にわたって彼の故郷旧山口村や沖縄県などの関係者取材して歩いた。本書は園原咲也の生い立ちを丹念に描き、そこから見えてくる咲也の評伝となっている。

本書によると、園原咲也は小学1年生の時に両親が離婚したため、母親と生き別れとなった。そんな幼い彼のつらい心を癒したのが故郷の野山に咲く花だった。この幼少時の植物とのふれあいが、植物への興味、ひいてはその研究を始めるきっかけになった。その後、日本で最初の林業を専門とする木曾山林学校に入学し、その多感な少年時代に学んだ林業の魅力に引きこまれ、彼は自分の一生を決めた。そのような彼の成長を木曾の野山の花が母親のように優しく見守っていた、という。さらに同書は、彼をはぐくんだ木曾の地、その空気、すなわち山に生き、木と共に暮らした人々の歴史にも筆がおよんでいる。

本編では、1章「ふるさと山口村」、2章「園や原に花の咲いたような義人になれ」、3章「父彰の波瀾万丈の生涯」、4章「木曾御料林事件と園原父子」、5章「山林の学を修めたが病みつき」と進み、最後の6章で「園原咲也についての一つの試論」という著者の「園原咲也論」とでも言うべきまとめが述べられている。

本書は、咲也に親しみを込めて「園原タンメー（おじいさん）」と呼び、敬愛してやまない沖縄の皆さんや、出身地の旧山口村をはじめとする木曾の方々、なかならず木曾山林学校・高校に関係の皆さんにも、一読されんことを願うものです。

本書は自費出版、B5版347ページ。下記の図書館で閲覧できます。

(長野県) 木曾山林資料館・木曾町図書館・塩尻市立図書館・県立長野図書館・他

(沖縄県) 国頭村民ふれあいセンター図書室・名護市立中央図書館・沖縄県立図書館・他

(岐阜県) 中津川市山口公民館図書室・同市立図書館・他

(東京) 国立国会図書館・大日本山林会など。

なお本書についてのお問い合わせは、手塚さんへ直接ご連絡ください。

携帯電話【090-7199-1517】